

2011 年度報告書（研究員）

氏 名	渡邊拓也
職 位	GCOE 研究員
<p>研究概要</p> <p>2011 年度は、次世代研究ユニット<方法としてのジモト>において、まちづくりをテーマにして出身地名古屋における地域研究（フィールド調査）を行った。ソフトパワー戦略に含まれる内在的かつ根源的なジレンマと方法的限界について明らかにしたその論考は、ワーキングペーパーの形にまとめられて現在査読中である。</p> <p>またコアプロジェクト（秋津：コミュニティ・中間圏班）においては、「中間圏」概念の理論的整理を行い、それを無意味な雑談（バヴァルダージュ）および社交とソシアビリテの領域と重ね合わせて思考しつつ、親密圏・公共圏という領域が相互的に再編成されるプロセスについて指摘した。沖縄（琉球大学）で開かれた研究会での報告をもとに執筆されたこの論考もまたワーキングペーパーとしてまとめられた（現在査読中）。</p> <p>他に、社会的逸脱の研究に関して論文（下記）をひとつ発表し、それに加えて二本目の博士論文を執筆、京都大学大学院文学研究科に提出した（現在審査中）。</p>	
<p>業績リスト（著書、論文、報告、その他に分けて主要なものを記入する）</p> <p>論文</p> <p>「医薬品からドラッグへ：一九世紀フランスにおける阿片」『ソシオロジ』第 56 巻 1 号、2011 年 6 月、3-19 頁。</p> <p>報告</p> <p>「中間圏の変容：<共>から<社交>へ——バヴァルダージュ空間を中心に」、京都大学 GCOE コアプロジェクト・コミュニティ班研究会、2012 年 2 月 28 日、琉球大学。</p>	